

# 日本の領土「尖閣諸島」を中国の侵略から守ろう！

中国や台湾（中華民国）は、日本が明治二十八年（一八九五年）正式に領土に組み入れて以来、尖閣諸島領有権を主張したことは一度もなかった。しかし、一九六七年、七〇年に行なわれた国連の海洋調査で、同諸島には推定一〇九五億バレルという、イラクに匹敵する大量の石油が埋蔵されている可能性があることが判明すると、一九七一年六月に台湾、また、同年十二月には中国が相次いで尖閣諸島の領有権を俄かに主張し始めた。換言すれば、資源が見つかったから領有権を主張し始めたわけであり、盗人だけだけの態度とはこのことである。

## ■中国漁船の悪質な領海侵犯

九月七日午前、中国の漁船が尖閣諸島近海のが国領海を侵犯した。中国漁船は、海上保安庁の巡視船の警告を振り切り、船体を衝突させ逃走を図るなど、その行動は極めて悪質で、海保はこれを拘束した。

しかし、日本政府が同船船長を公務執行妨害容疑で逮捕する方針を固めるまでに、半日ほどかかった。菅直人首相や仙谷由人官房長官らの怠慢と無策が原因だ。本来、「領海侵犯」（領海等における外国船舶の航行に関する法律）で対応すべきであったが、「公務執行妨害」で対処されたのは、仙谷官房長官が、中国と波風を立てたくない態度を示したからだという。

政府は、「東シナ海を友愛の海にしたい」との鳩山前首相の妄想に、未だ取りつかれ、中国の領海侵犯という現実に目をそむけている。

## ■尖閣諸島を中国の侵略から守ろう！

中国の反応は予想どおりだった。「釣魚（尖閣諸）島および周辺海域はもともと中国の領土だ」「日本の巡視船は、いわゆる権益保護活動を行ってはならない。中国の漁民の安全を損なう行為を行ってもならない」というのである。

石垣島のある議員は次のように語った。「現場の巡視船の乗組員は、耐えに耐えて頑張っているんです。乗組員が中国漁船に乗り移って調べようとすると、彼らは、日本側が武器を使わないのを知っているので、海上保安庁の乗組員を多数で縛り上げて海に突き落としたりするのです」

また、「巡視船が領海侵犯をしている中国船にマイクで、『ここは日本の領海です』と中国語で呼びかけ退去を要求すると、中国漁船からは日本語で、『馬鹿野郎、ここは中国の海だ』とマイクで返答してくるんです」

## ■南シナ海への侵略を続ける中国

いま南シナ海では、同海域の資源と権益を独占しようとする中国に対して、南シナ海の西沙・南沙諸島を守ろうと、ASEAN諸国が必死の闘いをしている。ASEAN諸国は、ベトナムを含めて南シナ海の航行の自由を守るために、国益をかけて米国との関係強化に乗り出した。

ゲーツ国防長官は去る六月、シンガポールでの国際戦略研究所（IIS）主催のアジア安全保障会議で、「いかなる脅威にも対処可能な最大限の軍事力の配備が米国のアジアへのコミット」と述べた。

# 菅内閣は断固たる姿勢で尖閣を守れ！

クリントン国務長官も七月、ベトナムのハノイでASEAN地域フォーラムに出席し、スピーチの約三分の一を割いて南シナ海の航行の自由の重要性とアジアへの米国の関心の強さを語った。いずれも中国を牽制(けんせい)する発言である。

楊中国外相は、南シナ海問題を「政治問題化してはならない」として、「米国の介入」に反発したが、南シナ海問題を外交交渉で解決し、武力を用いないという二〇〇二年の合意を破ったのは中国だ。

中国は、昨年以來、南シナ海で、憚ることなく軍事力を誇示している。インドネシアやベトナムが領海侵犯を繰り返す中国漁船を拿捕(だほ)すると、中国は軍艦を改造した大型船を送り込み、漁民の解放を要求。

インドネシアは海軍艦船を派遣したが、中国の圧倒的な軍事力の前に屈せざるを得なかった。中国はベトナム漁船の拿捕にとどまらず、漁民への銃撃まで行つた。さらには、中国は軍艦を派遣して、中国漁船の漁を守り始めた。ASEAN諸国に対して、力づくで中国の領有権を認めさせる真の狙いは、この海域の豊富な海底資源であることは間違いない。

## ■民主党政権は尖閣諸島を中国に差し出そうとしているのか

今回の尖閣諸島周辺での中国船衝突事件に関する、米政府の認識・立場は、クロウリー国務次官補(広報担当)によって端的に表明されている(八月一六日)。

(1) 尖閣諸島は日本の施政下にある。(2) 日米安保条約五条は、日本の施政下にある領域に適用される。加えて「(日米安保)条約が尖閣諸島に適用されるかと問われれば、そうだ」と明言した。

今回の事件は、中国が企てたものだが、米国や日本がどのように対応するのかを見ている。米国は明確な見解を示したが、わが国は、適切な対応をとったとはとても言えない。

事件後、中国当局は尖閣諸島周辺で操業する中国漁船を守るため、準軍事部隊である漁業監視船の派遣を決定したが、中国は更に強行に行動してくるに違いない。

未だに多くの中国漁船に領海侵犯され、さらには衝突事件以降、中国各地で日本の公館や在留邦人への悪質ないやがらせが多発している。日本総領事館にビール瓶が投げつけられ、天津市の日本人学校には金属球が撃ち込まれているにもかかわらず、与党は閣議で取り上げず、権力闘争に夢中になっている。

かつて、竹島に韓国兵が上陸しているのを認識しながら閣議で取り上げることもしなかった結果、今日に至るまで、竹島は韓国の実効支配の下におかれることとなった。

この教訓に何も学ばず、現在の菅内閣と民主党は、尖閣諸島を中国に差し出そうとしているとしか考えられない。本会は、菅政権に対して中国に断固とした対応をとることを強く求める。

### ●日本会議地方議員連盟

〒一〇〇〇一〇〇一四 東京都千代田区永田町二一九一六一五〇一

TEL 〇三―六九〇六―八九九五

ブログ 「草莽崛起―PRIDE OF JAPAN」

URL <http://prideojapan.blog10.fc2.com/>